

## ステキな出逢い！

～色覚異常の被害をもつ  
男の子と伊藤さんの物語～



ある時、色覚異常  
という障害をもつ  
男の子に出会いま  
した。



その男の子は保育園でみんなと同じよ  
うに、顔の絵を描いていました。しか  
し、男の子は色の区別ができないの  
で、髪の毛を紫色のクレヨンで塗ってし  
まったのです。



先生は男の子の障害を知らないので  
男の子を叱り、無理やり髪の毛を黒  
で塗り直したのです。



まっしん  
ちんちん

男の子はどうして叱られているのかさ  
えわからなかったので、「もう描きたく  
ない！」と言って、絵を描くことが怖  
くなってしまいました。



数年後、男の子は伊藤さんのクレ  
ヨンに出会いました。「トナカイのクレ  
ヨンは赤や青という色はないんだよ」  
「どんな絵も何色で塗っていい  
んだよ」と教えてもらいました。



男の子は数年ぶりに絵を描  
くことができました。  
その絵はきれいな  
アカネ色のクレ  
ヨンで塗って  
ました。



手作りクレヨン工房 Tuna-Kai

北海道川上郡標茶町  
虹別原野 704-3  
<http://www.tuna-kai.com/>

平成 26 年度北海道高校生自然環境ミーティング  
課題「地域の隠れ有名人にインタビュー」報告資料

制作者

北海道標茶高等学校

・永谷まや(3年)・篠原芹奈(3年)  
・藤澤香純(2年)・波野野露(2年)

制作日

2015年 8月 8日

隠れ有名人をさがせ！ in 標茶

Tuna-kai 編

北海道高校生自然環境ミーティング

## Profile

### Name

伊藤朋子さん Ito Tomoko

…「僕、絵を描いたことがないんだ。」…

伊藤さんは、化学物質アレルギーを持つ、一人の少年と出会う。

…「じゃあ、使えるクレヨンを作ってあげるよ！」…

この少年との約束を守るため、草木染を辞め、クレヨン作りを開始。  
クレヨン作りはそう簡単にはいかず、何度も諦めようと思ったこともあった。

クレヨンを完成させたい！試行錯誤あること10年。

…2011年 クレヨン第一号が完成…

2014年、夫婦でクレヨン作成開始。

今では、たくさんの人たちに楽しんでもらえるシリーズとして、  
クレヨン作りを続けている。

## 地域とのつながり

標茶町虹別にある、解体直前だった青年会館を借りようとしたとき、「また、たくさんの人に来てほしいから」と、地域の方々は快く貸してくれました。

さらに、床の歪みや水道の工事も町の方が協力して直してくれました。他の地域から来た自分に町の方々はとてとても親切で、優しい人ばかりだと教えてくれました。

### Tuna-Kai

アイヌの言葉で、  
Tuna(ものを運ぶ) Kai(家畜)という意味。  
一人でも多くの子どもたちに笑顔届けられるようなクレヨンを、という意味で息子が描いたトナカイの絵を使っている。



## 自然からのモライモノ

自然のものから色をいただいて作るクレヨン。  
クレヨンの色の名前は色や青ではなく、素材の名前にしています。

※クレヨンで実際に塗ってみました

例

### アイとエンジュ



銅剤を使わないため、  
緑はアイとエンジュを  
混合

### インドアイ



空気に触れると青  
くなる色素を持つ。  
殺虫・殺菌作用も

### エンジュ



中国原産のつぼみを使  
った明るい黄色

### どんぐり



どんぐりよりも  
淡い色

などなど…

## 絵の具

クレヨンだと作り出せない色を、絵の具で表現  
しました。

どんぐりの実やクミの皮から色をいただいた  
後に余ってしまう「どんぐりぼろし」や「クミの  
殻」。これらを余すことなく使い、絵の具の器  
として利用しています。



## クレヨンの主な成分



## 学んだこと

クレヨンは絵を描くための道具じゃなくて、  
遊ぶための道具でいいと思う

小さな子どもから高齢者の方まで幅広く愛されるクレヨン。  
石油由来の物質を一切使っていないこのクレヨンはこれまで  
たくさんの人たちを笑顔にしました。  
「クレヨンは丸いもの」「色の名前は赤や青」というような型に  
はまらず、伊藤さんのクレヨンは四角くて色の名前は素材の  
名前が書かれています。常識にとられず、柔軟な思考を  
持つことで、物事を色々な角度から見ることの大切さを学  
びました。



## 高校生に向けて…

クレヨンは自分が知らない世界を教えてくれる

人は一人一人、神様から与えられた仕事がある。  
そして誰かのために役に立つようになっている。  
クレヨン作りを通して、人と人とのつながりや出逢いが生  
まれた。自然の素材は様々な可能性を秘めている。  
今、新たな挑戦の一つとして、クレヨンを通して出逢っ  
た様々な職業の人たちと一本の樹木を素材として、  
五感を使うものを、例えばスプーンやアロマなどを作ら  
うと計画している。

表面に「一本の樹木を素材とした五感を使うもの」  
をイメージしてみました。

5つあるので、ぜひ探してみてください！